

和達研究室（環境国際関係論・EU 政治論）

教員名：和達容子

● どんな研究をしているところ？ どんなことに役立つの？

環境問題を解決していくには、一人一人の認識と行動が欠かせません。皆が協力して、それらが積み重なって、社会全体に成果をもたらします。地球温暖化のように国境を越えて被害を及ぼす問題には、地域やひとつの国だけでなく、全世界的な対応が必要となります。しかし、ときとして、それらの試みは上手く結果を出せないでいます。なぜ、うまくいかないのでしょうか。どうしたらよいのでしょうか。

本研究室においては、政治学(国際関係論を含む)の視点から環境問題を論じ、環境問題を予防・解決するための国内外の取り組み、それらを支える文化的社会的背景などを幅広く研究対象としています。

ゼミの活動の中心は、卒業研究の完成です。与えられたテーマをこなすのではなく、各自の関心に基づいてテーマを選定し、自らの手で1年間掛けて取り組みます。問題解決の意識を持って生活環境や社会全体を観察すること、そして Act locally を支える Think globally を怠らないこと…をこのゼミでは重視しています。

□卒業研究題目例:

- 地球温暖化防止京都会議における日本の対外政策決定要因
- 持続可能な社会の構築—スウェーデンの環境政策を事例として
- 環境政策における市民参加の意義と課題—長崎県地球温暖化対策協議会を事例として—
- 地球温暖化防止交渉における国家対立とその背景—各国の国内事情と国際関係
- 日本の海洋問題への取り組み—沿岸域の総合的管理を事例にして—
- 捕鯨から観光へ—鯨資源の利用の可能性
- 若年無業者への就業支援の現状と課題—支援機関の役割に着目して—
- 地方自治体における再生可能エネルギー普及政策の可能性—長崎県の取り組みを考える

● 先輩はどんなところに就職しているの？

公務員、民間企業(製造業、販売業、地域生協、弁護士事務所事務、社会福祉事業など)への実績があります。大学院へ進学する学生もいます。